

気になる情報を集め、活用し、自分の考えを発信する子どもを育てるN I Eの実践
～「新聞になじむ」「新聞に親しむ」「新聞を生かす」視点をも
った実践を通して～

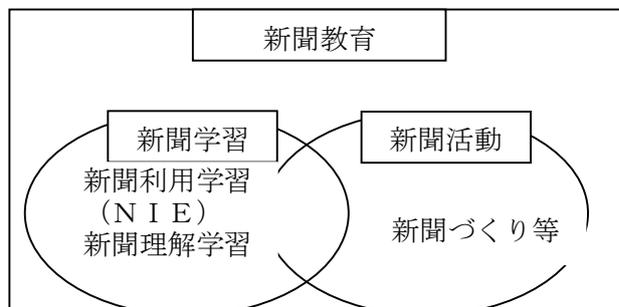
延岡市立上南方小学校
教 諭 森山 聖一

1 はじめに

学習指導要領の改訂における改善事項の一つが言語活動の充実である。中央教育審議会答申（平成20年1月17日）は、「各教科等における言語活動の充実は、今回の学習指導要領の改訂において各教科等を貫く重要な改善の視点である」と述べている。「子どもたちの思考力・判断力・表現力等をはぐくむためには、レポートの作成や論述といった知識・技能を活用する学習活動を各教科で行い、言語の能力を高める必要がある」ということである。また、中教審答申では、学校教育における新聞の活用に関して、言語活動の充実とともに、各教科等における言語活動を支える条件として、「辞書、新聞の活用や図書館の利用などについて指導し、子どもたちがこれらを通して更に情報を得て、思考を深めることが重要である」と述べている。

しかし、本学級（6年1組）の子どもは「新聞に触れる機会は極めて少ない」「新聞を活用している実態は少ない」という実態であった。新聞を読むのは、テレビ欄の確認とスポーツ欄を読むことぐらいで、情報の収集は、テレビ番組（朝の情報番組）が多かった。そこで、子どもの経験段階に応じて、新聞になじんだり、親しんだり、新聞を生かしたりする活動を行い、新聞と積極的にかかわる活動を展開することにした。

新聞教育の定義は明確ではないが、「これからの新聞教育」（鈴木伸男 編者 白順社）には、図のように整理しており、内容は5つに分けることができる。



- ①新聞をつくる作業（過程）を体験する。〈新聞活動〉
- ②新聞を読む。言語的体験をはぐくみ、考える力や情報選択能力などを学ぶための活動。新聞文章に学ぶ。〈新聞活動、新聞利用学習〉
- ③新聞を資料として使う。知識や情報を得て授業を補い、生活体験を豊かにする活動。教師主導の新聞利用〈新聞利用学習〉
- ④新聞を活用する。新聞で学ぶ。③に近い形で、子どもが主体的に取り組む。〈新聞活動、新聞利用学習〉
- ⑤新聞の仕組みを知る。新聞作りに学ぶ。〈新聞活動、新聞学習〉

新聞学習と新聞活動を分けて行うのではなく、広い新聞教育のくくりの中で、「新聞になじむ」「新聞に親しむ」「新聞を生かす」という3つの観点をもって本実践を行うことにした。

2 実践の概要

(1) 新聞になじむ活動

- □□新聞「今日の一面」
- クイズ、4コマ漫画

(2) 新聞に親しむ活動

- 興味を持った記事を探して読む・伝える係活動「今日のニュースタイム」
- 自分なりのテーマを持って情報を収集する取り組み
 - ・ 地域のよき発見（遠足で活用）
 - ・ 話し合いの形式（パネルディスカッション）
- 自校の紹介記事

(3) 新聞を生かす

- 考える力を伸ばす「新聞コラム批評」
- 表現する力を伸ばす「まとめ新聞」
- 投稿

3 具体的な取り組み

(1) 新聞になじむ活動

①「今日の1面」

NIEの実践校になり新聞が複数入ってくるようになった。ほとんどの子どもはこれまで、1日に1社の新聞のみ触れる環境にあった（自宅での購読）が、1日に複数の新聞を読むことができるようになった。並べ置くだけで興味をもって読むだろうと静観していると、ほとんど読まれず、手に取る子どももあまり見られなかった。これは、これまでに新聞のよさに触れる経験が少ないことによるものであった。そこで、朝の会の「先生の話」の際、「今日の1面はどんな話題が書いてあるかな」と1紙ずつ、取り上げ続けるようにした。すると、「今日は〇〇のことについて書いてある」「ニュースでも大きく報道していた」「あれ？A新聞とB新聞ではトップに扱っている記事が違うよ」などの違いに気付いたり、新聞作りの特徴について考えたりすることが多くなっていった。新聞の1面に注目する活動「今日の1面」の取り組みによって、新聞に対する関心が高まっていった。

② クイズ、4コマ漫画

新聞を手にとって読むようになると、いろいろなコーナーがあることに気付いていった。特に、各紙の4コマ漫画と、宮崎日日新聞の「頭の体操なぞナゾ」は、子どもが楽しみにしている内容であった。

毎朝、教室に届く新聞に触れるように続けたことにより、なじんできた子どもたちであった。

(2) 新聞に親しむ活動

① 係活動「今日のニュースタイム」

本学級では、係活動は「なければなくてもいいが、あると級友が楽しめるもので、そこには工夫が必要である」とし、当番活動（なくてはならないもの。例えば、日直や給食当番であり、工夫というより、忘れず真面目に取り組む姿勢が必要）と区別するようにしている。2学期からNIE係を立ち上げたが、級友が楽しめる活動を思うようには起業できない状況が続いた。3学期にはNIE係のメンバーが入れ替わり、活動内容がリニューアルされた。これまで「みなさん、新聞を読んでください」と呼びかける視点をもっていた係であったが、「こんな記事が

ありました」と紹介する姿勢をもつ取り組みに変わっていった。例：帰りの会の芸能ニュース

A：M-1グランプリで、NON STYLEが優勝しました。コンビの石田明さんと井上裕介さんは「今まで見ていた番組に出られるのがうれしい」と言っているそうです。
B：わたしもあの2人のネタを見たら、思わず笑ってしまいます。
A：この2人は、大阪市出身で同じ中学・高校の友達同士だったそうです。
B：だからこそあのおもしろさがあるんですね。
A：M-1には、過去7回参戦しましたが、決勝にはとどきませんでした。しかし、昨年4月、すべてを捨て、借金までして東京へ行き、ネタも一新すると、見事成功したんだそうです。
B：いろいろな苦労があったんですね。
A：これで今週のNIEニュースを終わります。

係の子どもなりの解釈を文章にし、伝えていく活動が生まれた。新聞を読み、内容を理解し、それを伝える原稿を書き、スピーチ風に伝える活動である。係の子どもの読む力・書く力を生かすことにより、新聞に親しむ活動となっている。写真は、担任の教師に関する記事を伝える児童と原稿を紹介した時の「今日のニュースタイム」を紹介したNIE掲示板である。



②情報を収集する取り組み

○遠足の場所の選定

新聞には身近な地域の記事も掲載される。教育活動に活用できる記事を収集し、活用した。秋の遠足は文字通り自分で歩き、校区内を散策し、地域のよさを再発見する活動にしたかった。散策に出かける動機付けを新聞で行った。

夏休みの自由研究で、自分の住む地区内を見て歩き、見付けたことや気付いたことをまとめた子どもが2人いた。行徳地区で見付けた植物や史跡を紹介したり、舞野地区にある分校跡の

石碑などを紹介したりするものであった。この子どもの自由研究に、次の2つの新聞記事を提示して、遠足のコースを話し合う活動を行った。

■神話と伝承「行藤山の伝説」(宮崎日日新聞 2001年 11月20日)

記事には、上南方地区のシンボルである行藤山を舞台に、ヤマトタケルノミコトの討伐の動きや藤(はき)の形に似ていることから「行藤山」と名付けたこと、ミコトが居を置いたところを武宮と呼ぶようになったこと(近くに「武宮」の地名がある)が書いてあり、最後に行藤神社はイザナキ、イザナミ、ヤマトタケルノミコトなどの神々を祭っていると結んである。社会で学習した神話・伝承と地域の事象が結びつき、行ってみたいという思いが生まれてきた。

■「石の鼓動が聴こえる」(宮崎日日新聞 2008年 4月 21日※下写真)を提示した。そこには、「美しさ保つ合掌げた」古野水路橋の見出しがある。



「古野って行藤町の地区じゃないかな」の声があがる。「そうなのです。行藤にめずらしい石橋があるそうです」と伝え、記事を読んでいった。記事によると、「合掌げた」は県内に2カ所しかない希少な水路橋であることが分かり、子どもは自分で確かめてみたいという思いを膨らま



せていった。そして、校区内の白地図を提示し、行藤神社、武宮のある舞野神社、古野水路橋の位置を確認し、社会科の古墳の学習で調べた「南方古墳 20~22号」の位置も併せて確かめ、遠足で回るコースを決定していった。

遠足では、片道2時間かけて南方古墳→舞野神社→古野水路橋と巡っていった。新聞で見た合掌げたの水路橋は、行藤地区の子どもの自宅のすぐ近くにあり驚く子どもたちであった。

竹林に入り込むとそこにはきれいな水が流れる水路があり、近所のおばあちゃんが「この水はずっと下の田んぼまで流れているんだよ。時々野菜を洗うこともある。役立つ水なんだよ」と教えてくれた。降りてみると合掌げたが見えてきた。「これだあ。新聞と同じだ。ほんとに手を合わせたようになっていく」の声があがった。遠足で見つけたこと、考えたことを地図にまとめる活動を行った。

- ・石で作られた合掌げたは、昔の人の知恵が詰まっています。すごかった。作るのにどれくらいの年月や費用がかかったのかな
- ・合掌げたは神秘的で、自然の感じがしました。まさか自分が住んでいる行藤にこんな素敵なものがあるなんて驚きました。
- ・石でできた合掌げたはきれいでしたが、意外と小さかったです。行藤を歩いてみると、他にもいろいろな発見があつてよかったです。

子どもの感想から、新聞で「気になる」ことが生まれ、地域を歩きながら活動が「気に入る」、遠足を通して地域のよさに「気付く」という3つの「気」がポイントになったことが分かる。新聞から情報を得て、さらに新しいことを得る活動を展開することができた。

○ 国語の学習「パネルディスカッション」

国語の学習に未来を予測したパネルディスカッションの学習がある。子どもたちは、ディベートの経験はあるものの、パネルディスカッションとはどういうものか分からなかった。そこで、新聞からパネルディスカッションの形式を学ぶことにした。

■求められる金融リテラシー教育の充実(日本経済新聞 2008年 12月30日)

■宮日報道と読者委員会(宮崎日日新聞 2008年 10月2日)

パネリストの意見の言い方、コーディネーターの進め方、まとめ方などパネルディスカッション

ョンを進めていく上でのイメージをもつことができた。

③ 自校の記事の紹介

本校の行事が新聞に取り上げられることがあ



り、記事になった新聞を校長室前廊下に掲示することにより、新聞に親しむ取組となっている。校長先生が、全校朝会の話や学校の教育目標等

の要素を加え、写真のように掲示してある。自分たちの学習活動が取り上げられ、記事として表現してある新聞を読むことにより、新聞に親しむ学校文化が醸成されていった。

(3) 新聞を生かす

① 考える力を伸ばす「新聞コラム批評」

本年度、言語活動の活性化を目指し、短い制限時間の中で書く「10分間作文」、新聞記事を要約しながら自分の考えを書く「新聞コラム批評」、出だしの1文に、1人ずつ文を書き足していく「リレー作文」など、楽しく書く作文指導に取り組んだ。

「新聞コラム批評」とは、新聞を読み、その記事を要約して自分の考えを書く取り組みである。読む力と書く力、とりわけ自分の意見を明



確にもつという練習のために行った。

新聞は、コラム欄、宮崎日日新聞「くろしお」、毎日新聞「余録」、読

売新聞「編集手帳」、西日本新聞「春秋」朝日新聞「天声人語」、や、読者投稿記事から取り上げるようにした。テーマは、時事のことから、6～9月にはオリンピックを、社会科で戦争について学習する11月には太平洋戦争勃発を選ぶように、子どもの生活や学習と関係あるものを選ぶようにした。写真のような形式で行った。

1面のコラム欄は、内容や表現が難しいことが多かったが「難解な部分は分かる範囲でよい」とし、「いい意味でできる範囲で書くようにすること」を強調するようにした。段落は大きく2つ。記事を読んで、「内容を要約する」とことと、「要約したことに対する自分の意見」を書くようにしたらよく書くことができるようになった。

② 投稿活動

情報を発信する活動として、新聞への投稿に取り組んだ。発信・受信の双方向のコミュニケーションを図ることができる。



写真は、若い目（宮崎日日新聞）に掲載された児童作文である。

4 おわりに

NIEとは、学校や家庭・地域等で新聞を教材として活用すること、新聞のニュース・意見・情報・作品などを授業等の教育活動で活用することであるととらえることができた。

本年度、言語活動を充実させるための作文指導において新聞を活用したり、情報を得たり考えを発信したりする手段として新聞を利用したりしてきた。その取り組みの中で、思考の基礎となる文字を読んだり書いたりする習慣を身に付けることができた。また、資料として新聞を活用することにより、情報を的確に収集・吟味・選択したり、明確な問題意識をもって追究したりする子どもの姿を見ることができた。